



福島小学校

- 校 長 都市賢典
- 児童数 100人
- 所在地
福島町塩浜免
2449番地2
- 創 立 明治7年



3月6日に福島小学校（都市賢典校長、児童100人）の閉校式が行われ、児童や卒業生、地域住民など関係者約450人が出席しました。

同校は明治7年に創立。「ふるさとを愛し、夢や希望に向かつて挑戦する子どもの育成」を教育目標に掲げる同校。地域文化やコミュニティの拠点として地域に支えられ、親しまれてきました。はじめに「思い出の会」が行われました。児童たちが太鼓演奏や劇、合唱などを披露すると、会場からは大きな拍手が送られました。

引き続き、閉校式が行われ、都市校長から松尾紘教育長に校旗が返納され、出席者全員で校歌を斉唱しました。



「児童代表の言葉」では、6年生の前田大輔君と永田悠紘君が「閉校になるのは本当に寂しい。地域の方々は優しく見守ってくださいました。僕たち6年生は最後の卒業生となります。『ふるさと・夢・希望・挑戦』。福島小学校で学んだことを力にしてこれからも頑張っていきます。たくさんの方々に見守られて福島小学校に通った子どもたちはとても幸せでした」と別れの言葉を述べました。

多くの人に惜しまれながら141年の長きにわたる校史に幕を下ろしました。



といち けんすけ
都市賢典さん
第39代校長

141年の伝統と歴史に幕が下ろされる時となりました。閉校は寂しいが、学校統合は未来に羽ばたく子どもたちの教育環境をより良い方向へと考えられたこと。夢と希望を持ち前向きに進んでいく子どもたちを心から応援したいと思っています。



やまくち もとなり
山口元成さん
閉校準備委員会
会長

卒業生の一人として、福島小学校での思い出がたくさんあります。閉校の道を歩むことになり、子どもたちの未来のためとはいえ寂しい思いが残ります。新しい福島葛原小学校が末永く愛され続ける学校になるようにみんなで見守りましょう。



よしだ せいとし
吉田聖年さん
PTA 会長

閉校は寂しいが、今日まで積み重ねてきた伝統はいつまでも受け継がれていくと確言しています。新しい福島葛原小学校でも、福島小学校で学び経験したことを発揮し、たくましく思いやりのある児童に育ってくれることを期待しています。

卒業生から一言

ふるさと・夢・希望・挑戦

ながた ゆひる
永田悠紘君

たくさんの思い出があるので閉校になるのはとても悲しいです。福島小学校はみんな仲がいいのが良いところ。在校生たちには新しい学校でも福島小のことを忘れずに頑張ってもらいたいです。

かがわ ひなこ
香川斐奈子さん

閉校は悲しいけど、閉校式では在校生に新しい学校でも頑張ってもらいたいという気持ちで発表ができました。これからも「ふるさと・夢・希望・挑戦」の心を忘れずに頑張ります。地域の皆さん、先生方には温かく見守り、指導してもらって感謝しています。



福島小6年 永田悠紘君(左)・香川斐奈子さん(右)



「養源魂」忘れない...



養源小6年 豊川和弘君(左)・西翔生君(右)



とよかわかずひろ
豊川和弘君

閉校式には体育館に入りきれないほどたくさんの人が集まってくれました。別れの言葉や歌などしっかりできました。学校がなくなるのはとてもさみしい。在校生たちには養源小学校で学んだことを生かしながら頑張ってもらいたいです。

にし かなる
西翔生君

閉校式では鼓笛隊の演奏など、感動ある発表ができました。地域の人たちにはいつも温かく見守っていただき感謝しています。養源小学校は児童数は少ないけど、みんなとても仲が良くて元気です。卒業しても養源魂「やる気・元気・本気・根気」を持ち続けていきたいです。

この大切な時間を過ごす子どもたちにより良い環境を奪えたいという思いから両校は統合への道へ踏み出しました。

4月から福島養源小学校として新たなスタートを切ります。学校だけでなく地域にとっても新しい一歩を踏み出すこととなります。今まで以上に地域が一つとなり、子どもたちを見守り育てていくことで、これまでそれぞれの学校が築いてきた素晴らしい伝統や精神は、絶えることなく受け継がれていくでしょう。

平成28年3月、養源と福島の2小学校が閉校しました。141年という長い歴史の幕引きに、各校の閉校式では、多くの出席者が惜別の涙を流しました。

地域に愛され、コミュニティの構築を支えてきた小学校の閉校。少子高齢化が進む現代にとって、学校の統合は避けては通れない課題の一つです。将来の地域社会を担う子どもたち。小学校での教育は、社会性、感性、倫理観など人格の形成に大きな影響を与えます。

歴史と伝統を受け継ぎ、新たな一歩へ